

海域の概要

本湾は、土佐湾中央部に存在する湾で、奥行きが8.8 kmあるにも関わらず入り口が狭い湾です。入り口の水深も浅く、非常に閉鎖的な湾となっています。



浦ノ内湾

Specification

諸元

湾口幅：1.24 km

面積：12.37 km²

湾内最大水深：2.0 m

湾口最大水深：9 m

閉鎖度指標：6.30

備考：環境基準類型指定水域

Location

範囲または位置

高知県土佐市竜岬と宇佐漁港荻岬防波堤先端を結ぶ線、同防波堤及び陸岸により囲まれた海域。

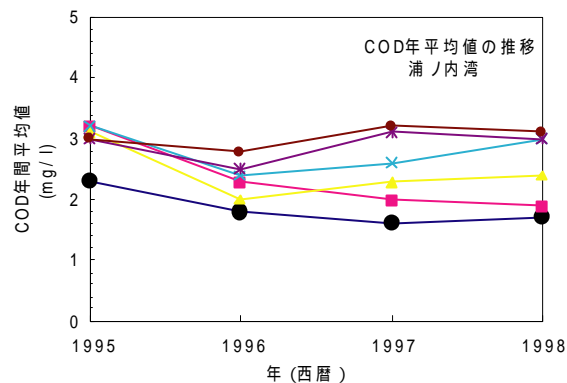


環境

浦ノ内湾は奥行きが深く、湾口が狭く、湾口の水深も浅いため閉鎖的な水域となっており、夏期には強固な密度成層が発達して、表層と底層の海水が混ざりにくくなります。

このような閉鎖性が強い湾であることもあり、水質悪化が進み、COD年平均值は2~3.5mg/lと高いレベルで推移しています。また、底質環境も、貝類養殖が多く行われているなどにより悪化が進み、覆砂や曝気などの改善策がとられています。

近年、我が国各所で貝類養殖に大きな被害を及ぼしている渦鞭毛藻のヘテロカプサ赤潮が世界で初めて確認された湾としても知られています。



自然

浦ノ内湾は別名「横浪三里」と呼称されています。その由来は、リアス式の海岸線でラクダのこぶのように連なる横浪半島に囲まれているため、湖のように滑らかで寄せる波が横から横へと広がることから付いています。

湾内には藻場は少なく、湾口の宇佐大橋近辺にアオサやオゴノリの藻場が分布している程度です。また、この付近には干潟もあり、4月から9月にかけては、アサリの潮干狩りができます。湾口部から湾奥部の潮間帯ではカキが繁殖しています。

観光用として、「横浪黒潮ライン」が湾を周回しており、湾先端部には宇佐大橋が架かっています。



潮干狩りで採れたアサリ

文化歴史

湾奥の須崎市浦ノ内では、みこしを御座船にのせてお旅所神幸を行う鳴無神社のお船遊びが8月末に行われます。

産業

湾内はハマチ、真珠などの養殖場として利用されていて、アサリも多産しています。

土佐節発祥の地として知られる湾口の宇佐では、18世紀末に現在のかつお節の製法が開発され、かつおの生節の生産量は県内第2位を誇るとともに、塩干品・煮干品・しらす干品・みりん干品などの水産加工品の特産地となっています。

宇佐港は昔は遠洋・沖合漁業が盛んでしたが、現在は釣り漁業と延縄を主にカツオ・マグロ・ウルメイワシ漁のほか、採貝漁業が行われています。



かつお節